

a 学校教育目標	「自ら伸びる」児童の育成 わくわく登校、満足下校	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 夢や目標に向かって、自ら伸びようとする児童を育成する学校 【育成を目指す資質・能力】○知識及び技能 ○思考力・表現力 ○主体性
----------	--------------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価				改善方針		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価		m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	
確かな学力	◎R80を核とした授業デザインを通して学力を向上させる 【学期末テスト 学年平均80点以上学力調査標準値より2ポイントUP】	【個別指導の充実・基礎・基本の徹底】 ①全学級で支援が必要な児童に、複数対応による補充学習(支援が必要な児童には四則計算の徹底を重視) ②思考力向上に向けて、沼田西検定テストを実施	①単元末テスト ②学力調査 ③児童アンケート	①平均得点率80%以上 ②学力調査標準値より2ポイントUP ③肯定的評価80%以上	①知・技6/6学年100% 思・判・表2/6学年33.3%	①知技6/6学年100% 思判表4/6学年66.6%	①104%	A	【単元末テスト】 A 知・技 1年93.5、2年93.5、3年89.5、4年90、5年83.6、6年90、 B 思・判・表 1年84、2年85.8、3年80、4年80、5年61、6年72.5であった。 【学力調査】 1年91.0、2年82.8、3年78.4、4年82.2、5年76.5、6年79.2であった。 上半期から基礎基本の定着のために、四則計算の徹底の成果だと考える。 【アンケート結果】 授業アンケートの肯定的評価は、全ての項目で84%以上で目標を達成することができた。特に「授業の内容がよくわかりますか」は95.7%で、未習と既習をつなげた授業づくりを日々の授業改善を意識したことが結果につながったと考える。	【授業改善によって学力の向上を図る】 ①講師を招聘しての教材研究の充実 A 児童が自力解決するために(問い→既習と未習の相違点) B 数学的な見方・考え方を獲得するために(まとめ→既習と未習の共通点 見方・考え方の系統性) ②自分の考えをもって、交流する場を設定する。 ③R80の質的向上のための交流研修 【基礎基本の徹底によって学力の向上を図る】 ①きらきらタイムにおいて、次のことに取り組む。 ・四則計算の習熟のための仕組みづくり ・様々な問題にチャレンジさせ、解き方を解説し、確実に解き直しを行うことで、解き方をマスターさせる。 ②組織的な体制 学力補充においては、国語・算数において複数教員で指導にあたり、きめ細かな指導を行い、学力向上につなげる。 ③検定テストの作成	5	5	・さまざまな子供達がいる中、未習と既習をつなげた授業作りに尽力していただいた。「授業内容がよくわかる」95.7%は素晴らしい。 ・学力調査の結果が昨年より上がっていることは素晴らしい。組織的な体制で子供達へのきめ細かな指導が学力の向上につながったと思う。 ・学力向上に向け、組織的に取り組まれた成果が結果につながったと思う。課題をもとに、具体的な授業改善に取り組まれていくという方向性をしっかり感じることができた。この方策を進めていただきたい。 ・改善ももちろん大切であるが、継続も大事だと思う。今後も良い取組は継続していただきたい。 ・6年生が、防災学習の中で行ったICTを使った発表が分かりやすく素晴らしい。
					③肯定的評価90.5%	③肯定的評価91.2%	③114%	A			【ICTの活用】 機器に親しませ、発達段階に応じた活動や授業を行うことで、児童のICT能力の向上につながった。 B 1分間に40文字のタイピング能力については、学校全体で80%に向上した。 C SNSをはじめとしたインターネットの使い方について、肯定的な回答をした児童は96%、情報の真偽判別や、発言内容に気を付けているかでは肯定的な回答が90%となり、ともに向上した。	5	
豊かな心	◎ICTの活用【プレゼン能力の向上・タイピング検定・情報モラル教育】	【ルールを守り活用できる児童】 ①育成すべき能力を発達段階に応じて具体的な子ども姿を設定 ②タイピング練習で情報活用能力の基礎力の向上 ③情報モラル教育の充実	マイプレゼンの実施	年3回以上	1回	1回	66%	B	A スライドを用いた活動を参観日等で行い、またそれを用いた発表をすることで、児童のICT能力の向上につながった。 B 1分間に40文字のタイピング能力については、学校全体で80%に向上した。 C SNSをはじめとしたインターネットの使い方について、肯定的な回答をした児童は96%、情報の真偽判別や、発言内容に気を付けているかでは肯定的な回答が90%となり、ともに向上した。	【児童会の活性化と親和性の育成】 ①月1回の代表委員会(児童会・委員長・学級代表)で、月目標の振り返りや行事の目標を話し合い活動を振り返る場の設定 ②児童会を中心に学年や縦割りでの交流や遊びの場を設定し、児童同士の親和性を意識させる。	5	・交流・発表・認められ場の設定をこれからも続けて、子供自身が自分のよさを認めたいと思う。 ・規範意識が高い、自由な発信力は低くなる傾向にあるのだろうか。 ・スポーツフェスティバル、文化フェスティバルの取組は、児童が日々の学習の中で培った力が発揮できていた。	
					82.7%	100%	A	I-checkを分析した結果、社会性の項目において、平均して82.7%の児童が肯定的な回答をしている。項目ごとでは、「規範意識」は肯定的な回答が87%と、高い結果となった。一方で「発信力」は肯定的な回答が70%にとどまった。このことから規範意識の高まりが見られる一方で、自分の意見を発言したり、他の人の意見に対して質問を行うなどの発信力に課題が見られる児童が多いことがわかった。			5		
豊かな心	◎親和性の高い集団づくり 【I-check・自己認識・社会性の向上へ】	【PDCAサイクルと振り返り】 ①学級チャレンジ……学級目標の設定と評価活動、学級チャレンジと行事を関連付け ②共感的な学び合いを実践し、認め合い感謝する仲間づくり ③特別支援の視点を経営に取り入れ、個に応じた	①I-check・社会性の向上へ ②児童アンケート	①I-check・社会性の向上へ80%以上 ②児童の肯定的評価80%以上	82.7%	100%	100%	A	I-checkを分析した結果、社会性の項目において、平均して82.7%の児童が肯定的な回答をしている。項目ごとでは、「規範意識」は肯定的な回答が87%と、高い結果となった。一方で「発信力」は肯定的な回答が70%にとどまった。このことから規範意識の高まりが見られる一方で、自分の意見を発言したり、他の人の意見に対して質問を行うなどの発信力に課題が見られる児童が多いことがわかった。 アンケートの結果、平均して90.6%の児童が肯定的な回答となった。 A「自分には相談できる人がいる。」という項目においては90.5%という高い割合の児童が肯定的な評価を示した。このことから、学校や家庭で相談できる環境が整っていると考えられる。 B「自分の良いところを言えますか。」という項目においては、肯定的評価が69.5%で前回の結果を下回る結果となった。行事等の成果を児童が肯定的に振り返る場を増やすことはできたが、それが児童に伝わり切っていないと考えられる。	【自己肯定感の育成に向けて】 ①行事の目標を決め、スポーツフェス・文化フェスなどの振り返りを発表する場を設ける。達成度や振り返りの内容を学校全体で交流する。(教職員からも肯定的な評価や感謝の言葉を伝え、児童の自己肯定感の向上を目指す。) ②各学年のハフアマン朝会の際にそれぞれの学年から感想を集め、自己肯定感や達成感を感じられるようにする。	5	・規範意識が高い、自由な発信力は低くなる傾向にあるのだろうか。 ・スポーツフェスティバル、文化フェスティバルの取組は、児童が日々の学習の中で培った力が発揮できていた。	
					86%	90.6%	100%	A			【児童会の活性化と親和性の育成】 ①月1回の代表委員会(児童会・委員長・学級代表)で、月目標の振り返りや行事の目標を話し合い活動を振り返る場の設定 ②児童会を中心に学年や縦割りでの交流や遊びの場を設定し、児童同士の親和性を意識させる。		5
健やかな体	◎運動に対する意欲の向上 【個人記録の結果が全員UPする】	◎楽しみながら体を動かすことで体力を向上させる。 【個人記録・アンケートの結果が85%UP】	【運動に対する児童の意欲向上】 ①体育科を中心とした、準備体操やACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)。 ②体力テスト後課題がある種目を定期測定 ③全校外遊び ④視覚的に目標やゴールが見えるカードの作成と評価	①個人記録の結果85%以上 ②児童の肯定的評価80%以上	90.5%	85.26%	100%	A	A 10月の新体力テストでは、全国平均より低い種目が、1年生は長座体前屈、2年生は立ち幅跳び、3年生は立ち幅跳びとソフトボール投げ、4年生は立ち幅跳び、5年生はソフトボール投げ、6年生もソフトボール投げであり、課題があることが分かった。 B 児童アンケートの結果を見ると、「体を動かすことが好きですか。」と「進んで外遊びをしたり、体を動かしたりしていますか。」の項目において肯定的な評価をした児童の割合が共に85.26%であった。運動に積極的に取り組む児童の割合が多いことが分かったが、「体を動かすことが好きですか。」の項目においては、前回の結果から5%下回る結果となった。	【体力の向上に向けて】 ①課題である種目(長座体前屈、立ち幅跳び、ソフトボール投げ)については、日頃の体育の授業の際に練習に取り組んだり、のびのび朝会で全校で取り組んだりする。 ②「体を動かすことが好き」という児童を増やすために、全校で楽しく体を動かせる場を積極的に設定したり、体育の授業の際には、運動の効果を伝えることで、児童が意欲的に取り組めるようしたりする。運動を楽しめる雰囲気づくりを大切にす。	5	全校が集まり、運動場でゲームをして遊んでいる姿をみた。子供達の顔がいきいきしていた。	
					83%	85.26%	100%	A			【児童のアンケート結果】 項目の肯定的評価平均が89% A○沼田西町のことが好きですか93.6% ○沼田西町のためになることをやってみたいですか85% 地域の方や地域の方の協力によりCSも順調に進んでいるおかげで、地域との交流や目的が児童が実感しているため、地域については、肯定的評価が高くなっている。 B○自分のことが好きですか82% ○自分のよいところを言えますか70% 上記の結果から、豊かな心と同じく、自己肯定感低い児童が多い。		5
地域に信頼される学校	◎コミュニティースクール・小中一貫による教育活動の充実を図り、郷土を愛する心を養う。 【コミュニティースクール】【五中ブロック】	◎沼田西小の強みを生かした探究的な学習を展開し、自分や友達、郷土を愛する心を養う。 【自己評価…児童】 【アンケート評価…保護者】	【コミュニティースクールを活用し教育力向上】 ①学校の教育活動を、地域と共に企画・実行することで、地域の方や地域の事に関わる機会 ②地域への感謝の気持ちを視覚化・伝えることの大切さを実感 ③総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメント(地域資源のよりよい活用方法・地域学習の充実) ④SSWを活用したチームNTNSの取組	自分や友達、学校や地域に対する愛着に関するアンケート項目の肯定的評価80%以上	84%	89%	100%	A	【児童のアンケート結果】 項目の肯定的評価平均が89% A○沼田西町のことが好きですか93.6% ○沼田西町のためになることをやってみたいですか85% 地域の方や地域の方の協力によりCSも順調に進んでいるおかげで、地域との交流や目的が児童が実感しているため、地域については、肯定的評価が高くなっている。 B○自分のことが好きですか82% ○自分のよいところを言えますか70% 上記の結果から、豊かな心と同じく、自己肯定感低い児童が多い。	【自分や地域のよさを感じさせる活動の充実】 A地域のよさを感じさせる活動のために、CSの進捗状況の確実な推進と、児童が地域や保護者に感謝を表現できる機会や場を大切にす。 B豊かな心の自己肯定感の育成と同じ取組を徹底	5	・よく会っていると親近感がわいたり、つながりを感じたりするが、今の世の中、不審者対策もある中で、子供達も防犯意識から警戒心が強くなっているかもしれない。その中でも、地域とのつながりを感じてほしい。例えば、エヒメアヤマの下草刈りなどは、大人になっても思い返すと思う。	
					100%	100%	91%	B			【時間外勤務とアンケート】 ①について 特定の職員が45時間を超える傾向は後期もあったが、全体の平均は30.1時間であった。個人業務の効率化について、学校全体の課題としてとらえ、支援を考えていくことが今後必要である。 ②について アンケートの結果は肯定的評価が100%であった。職員個々に、自分の貢献度については実感がある。		5
地域に信頼される学校	◎チームNTNSとして、業務改善を図る。 【時間外勤務時間目標総時数 達成率100%】	◎在校時間を短縮する。 【時間外勤務時間目標総時数 達成率100%】	【適材適所の人材配置による業務改善】 ①個性を発揮できる職務に就くことで、一人一人のモチベーションを高め、業務を効率化 ②建設的な雰囲気醸成しチーム力の向上 ③一人一人が生きて働くことができる組織へとさらに成長 ④業務改善のための校務DX ⑤不祥事0	①年間平均45時間以内の職員100% ②教職員アンケート肯定的評価85%以上	①92% (4~9月平均) ②100%	①90% (10~1月平均) ②100%	91%	B	【時間外勤務とアンケート】 ①について 特定の職員が45時間を超える傾向は後期もあったが、全体の平均は30.1時間であった。個人業務の効率化について、学校全体の課題としてとらえ、支援を考えていくことが今後必要である。 ②について アンケートの結果は肯定的評価が100%であった。職員個々に、自分の貢献度については実感がある。	【チームNTNSの育成と業務改善のための校務DX】 ①職務の振り等面談や熟議の場を設け確認し、組織として改善できることはないか検討し、取り組む。 ②個々の面談等を通して、自己成長につながる働き方について考えていく場を設定する。 ③本年度の組織としての課題を分析し、校務DXの深化など、来年度に向けた組織づくりの見直しと修正を行う。	5	・チームNTNSが1つになっている様子をスポーツフェスティバル、文化フェスティバルで見ることができた。また、学力の向上もその成果だと思う。 ・スポーツフェスティバル、文化フェスティバルに地域の方を招いて学校に関心をもってもらえるとよいと思う。	
					100%	100%	91%	B			【時間外勤務とアンケート】 ①について 特定の職員が45時間を超える傾向は後期もあったが、全体の平均は30.1時間であった。個人業務の効率化について、学校全体の課題としてとらえ、支援を考えていくことが今後必要である。 ②について アンケートの結果は肯定的評価が100%であった。職員個々に、自分の貢献度については実感がある。		5

本年度の重点目標については◎印で示す。

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。